

平成30年加美町議会第3回臨時会会議録第1号

平成30年4月13日（金曜日）

出席議員（18名）

1番	味上庄一郎君	2番	猪股俊一君
3番	早坂忠幸君	4番	三浦進君
5番	高橋聡輔君	6番	伊藤由子君
7番	木村哲夫君	8番	三浦英典君
9番	沼田雄哉君	10番	一條寛君
11番	工藤清悦君	12番	伊藤淳君
13番	伊藤信行君	14番	佐藤善一君
15番	下山孝雄君	16番	米木正二君
17番	三浦又英君	18番	早坂伊佐雄君

欠席議員（なし）

欠員（なし）

説明のため出席した者

町長	猪股洋文君
副町長	吉田恵君
総務課長・選挙 管理委員会書記長	佐藤敬君
会計管理者兼会計課長	工藤義則君
企画財政課長	熊谷和寿君
協働のまちづくり推進課長	三浦勝浩君
町民課長	荒木澄子君
税務課長	佐藤和枝君
農林課長	長沼哲君
商工観光課長 兼ひと・しごと支援室長	岩崎行輝君
建設課長	三浦守男君

保健福祉課長	内海 悟 君
上下水道課長	大場 利之 君
小野田支所長	岡崎 秀俊 君
宮崎支所長	今野 仁一 君
総務課長補佐	西山 千秋 君
教 育 長	早坂 家一 君
教育総務課長	二瓶 栄悦 君
生涯学習課長	遠藤 肇 君
農業委員会事務局長	太田 浩二 君

事務局職員出席者

事 務 局 長	武田 守義 君
次 長	内海 茂 君
主幹兼総務係長	内出 由紀子 君
主幹兼議事調査係長	後藤 崇史 君

議事日程

- 第 1 会議録署名議員の指名
- 第 2 会期の決定
- 第 3 議案第41号 平成30年度加美町一般会計補正予算(第1号)

本日の会議に付した事件

日程第1から日程第3まで

午後4時20分 開会・開議

○議長（早坂伊佐雄君） 本日は大変ご苦労さまです。

ただいまの出席議員は18名であります。定足数に達しておりますので、これより平成30年加美町議会第3回臨時会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（早坂伊佐雄君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第123条の規定により、4番三浦 進君、5番高橋聡輔君を指名いたします。

日程第2 会期の決定の件

○議長（早坂伊佐雄君） 日程第2、会期の決定の件を議題といたします。

お諮りいたします。本臨時会の会期については、本日1日間にしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（早坂伊佐雄君） ご異議なしと認めます。よって、本臨時会の会期は本日1日間と決定いたしました。

日程第3 議案第41号 平成30年度加美町一般会計補正予算（第1号）

○議長（早坂伊佐雄君） 日程第3、議案第41号平成30年度加美町一般会計補正予算（第1号）を議題といたします。

本件について提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（猪股洋文君） 議案第41号平成30年度加美町一般会計補正予算（第1号）についてご説明申し上げます。

今回、既定予算に歳入歳出それぞれ1,046万6,000円を追加し、歳入歳出それぞれ133億4,046万6,000円とする補正予算を行うものであります。

内容は、地方創生推進交付金の内示が3月29日にあり、関連事業予算を追加するほか、地域再生計画に基づく地方創生応援税制、いわゆる企業版ふるさと納税活用事業を追加するものであります。

歳入については、国庫支出金として地方創生推進交付金1,026万6,000円増、寄附金として、まち・ひと・しごと創生応援寄附金20万円増であります。

歳出については、総務費一般管理費で71万3,000円増、まち・ひと・しごと創生寄附金活用事業で40万円増、地方創生推進交付金事業で2,053万2,000円増のほか、予備費を減額するものであります。

よろしくご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○議長（早坂伊佐雄君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ございませんか。11番工藤清悦君。

○11番（工藤清悦君） 5ページから6ページにかけて質問させていただきたいと思います。

まず、地方創生の推進交付金関係で、障がい者カヌー競技サポートで100万円補正を置かれていますけれども、この講習会の回数と内容、その委託料の積算根拠となったものについてお伺いしますし、また、他の自治体、またカヌー協会等で手がけているものなのかどうか、その点についてお伺いします。

もう一つ、ストライダーの開催事業委託料とか、情報発信の委託料、さまざまここにはあるんですけども、当初、地方創生の事業の説明を受けるときに、稼ぐ力を養うんだというような説明がありました。実際稼ぐ力、こういう事業をすることによって交流人口が増え、また関係人口も増え、または、そのかかわることによって経済効果なり、または、行く行くは新しいなりわいというものも発生してくるのかなというふうには思いますけれども、どのぐらい時間たてば効果出るのかというようなことに関しては、我々も把握できることではないんですけども、この子どもたち向けのバイクの予想している効果といたしますか、そういうものについてまず一つ、2つ目でお伺いしたいと思います。

もう一つ、次のページの6ページ、シートゥーサミットの運営ということで600万円何がし計上されておりますけれども、平成29年度はプレ大会というようなことで、多分モンベルさんに50万円ぐらいだったですかね、そのお世話料といたしますか、支払ったんですけども、今回は300万円以上というようなことなんですけれども、さきの全員協議会の中でもこの運営についての委託料についての内容等についてもお話しいただいたんですけども、果たしてプレ大会も現場をきっちり見ていただいて、加美町ならではのシートゥーサミットというものがどういう方向にあるべきかというような検討はされたのかどうかというようなことで、ちょっと疑問を感じております。

というのは、確かに鳴瀬川カヌーレーシング場から出発して、バイク、バイクということで

葉山まで行ったんですけれども、初めてだと言えばそれまでの話なんですけれども、実際、本当にモンベルの勘どころをつかんだ事業運営だったのかなということに関しては、若干疑問を持っておりまして、今後シートゥーサミット本大会になると思うんですけれども、この300万円近くの委託料というか、お世話料、アドバイス料の内容について、いかに現場を知ってもらおうかということについての考え方をお伺いしたいと思います。

○議長（早坂伊佐雄君） 体育振興室長。

○体育振興室長（上野一典君） 体育振興室長でございます。

今のご質問の障がい者カヌー競技サポートスタッフ講習会開催業務委託料としまして、100万円についてちょっとお答えさせていただきます。

実際の講習会の内容でございますけれども、今現在、健常者のカヌー体験、またはカヌー競技をやられているわけなんですけれども、それらのスタッフを踏まえて、今後の障害者を受けられる体制を整えるということで考えております。

それで、実際の100万円の内容でございますけれども、日本障害者カヌー協会というのがございます。そこに講師を派遣要請いたしまして、年3回ほど考えております。講師は、1回大体3名ぐらいで来てもらって、3回の講習会ということで、内容については、交通費21万6,000円、あと宿泊費9万円、謝金45万円、あと、その他需用費といたしまして100万円の内容で計上しているものでございます。

あと、協会等のかかわりということですが、パラリンピックということで、一応事前練習の誘致ということで話はしておりますが、講習会についてはまだ話はしておりません。今後県カヌー協会の総会、またはあとB&Gの指導者とか、かかわるほかの協会等とも話をしまして、協力体制を整えていきたいと思っております。

なお、講習会についても参加して、今後のカヌーの取り組みに生かせるようにしていきたいと思っております。以上でございます。よろしく申し上げます。

○議長（早坂伊佐雄君） 企画財政課長。

○企画財政課長（熊谷和寿君） 2点目の経済効果、波及効果といった内容のご質問にお答えをさせていただきます。

先ほど全員協議会でもお話ししましたように、今回の事業等によりまして、1万人掛ける1人当たりの消費額、交流人口1人当たりの消費額について1,180円というようなことで、全体で1,180万円というお話、説明をさせていただきました。

その1万人の根拠でございますけれども、その中にランニングバイクに関する人口、ランニ

ングパークの利用者数をまず年間500人と見込んでいるというお話もさせていただきました。

それから、大きな大会、エンジョイカップという大会でございますが、それも開催をする予定でございます。このエンジョイカップでございますけれども、大体250人ぐらいの参加者を見込んでございまして、それに伴って随行者といいますか、家族の方々、両親あるいはその兄弟等々で1家族4人ぐらいは来るだろうということで、250人の4人で1,000人という形で見込んでございます。

先ほどの500人とこの大会の1,000人、合わせまして1,500人掛ける1日の消費額について、先ほど申し上げました1,180円を掛けますと大体200万円弱、正確には1,770万円という数字になって、この辺が経済効果として見込めるであろうというふうに考えているところでございます。以上でございます。

○議長（早坂伊佐雄君） 商工観光課長。

○商工観光課長兼ひと・しごと支援室長（岩崎行輝君） 商工観光課長でございます。

ご質問で今年度のシートゥーサミットの本番、加美町としての独自性をどうやって出していくのかというご質問でございますが、昨年度、私は直接かかわっていないので、具体的なイメージというのはないんですが、いろいろご協力された皆様のお話は伺っておりまして、そういった昨年度のプレ大会のまず一つ経験とか、あるいは反省、そういったものが一つあるのかなというふうに思っております。

それで、今年度については、加美町を含めて12回予定をされているようなんですが、直近では5月19日に鳥取県、あるいは7月21日には妙高市、そういった割と加美町と似たようなシチュエーションといいますか、そういった土地柄で開催されるところになお観光協会あるいは関係する方々視察に行かれまして、さらに昨年度のその反省点等踏まえて、より具体的なところをこれから、これからというのはちょっと悠長とおっしゃられるかもしれませんが、具体的な独自性を含めてもっと具体的な形を最後詰めていくということで予定をしているようでございますので、よろしくご理解をお願いいたします。

今回プレ大会から本番ということで、いろいろ予算増の理由は何かということもあるんですが、コースの改良あるいは内容の見直し等も含めて、そういった部分の上乗せになっていると。

それからあと、PR等で専門のほうへの専門誌というんでしょうか、そういったところへのPRも含めて、前年度よりはお金がかかるということでの増額というように聞いております。以上でございます。

○議長（早坂伊佐雄君） 工藤清悦君。

○11番（工藤清悦君） 障がい者カヌーのサポートスタッフの講習会お聞きしました。健常者を中心とするようなことでありますけれども、さまざまな機会あるごとにお世話できる体制というものを整えるためには、結構裾野広くお願いしておかなくちゃいけないという部分があると思いますし、その辺必ず、3回と言いましたっけ、必ず都合つく人ということもないと思いますので、その辺幅を持った形での開催をしていただければ、事業効果というものも上がるのかなと思いますので、そこら辺についての考え方を伺います。

それから、これからの地方創生の取り組む経済効果、以前にも町長にも経済効果という部分について伺いはしたことがあったんですけども。必ずそこに落ちたというか、そこで消費していただいた金額が全て残るわけでもございませんので、実際計算の仕方も非常に難しい部分があるんだろう。公式があるんでしょうけれども、ただ、さまざまなことを委託する場合にどういう基準というか、積算で委託するものかというようなことを常々思っています。

というのは、今度ボルダリングも始まったわけですけども、古川は民設で民営でやっていて、採算とれているわけですよ。私たちの町のボルダリングは、公設で運営するのに800万円でしたかね、で指定管理をお願いしていると。やはり収益、これはストライダーのコースの設定で振興公社に150万円だかをお願いするという部分の積算根拠にも、今度機会来たら聞きますけれども、やはり公設をしたのであれば、できるだけ委託料なり指定管理料なりを減らしながらやっていただける方策というのを見つけていかななくちゃいけないというふうに思うんですけども、その辺についての考え方というものを伺いたしたいと思います。

それからもう一つ、さっきモンベルのお話したんですけども、確かにモンベルの情報発信力というのはすごいと思いますけれども、その情報に食いついていくための町民の情報提供の場というのにも必要になってくるのかなというふうに思います。

というのは、モンベルの価値といいますか、それもなかなか町民の方々が理解していない部分もあったりしますので、ぜひこっちからでなくても情報が入ってくるというような町民の方々には。その辺についてのお考えありましたら伺いたしたいと思います。

○議長（早坂伊佐雄君） 体育振興室長。

○体育振興室長（上野一典君） 体育振興室長でございます。

一番最初の、まずボランティアスタッフの養成の裾野を広げてくださいということですけども、まずもって県内には協会が加美町、仙台市、あと石巻市とか等々あります。それらの方々のご協力は必ず募るわけですけども、あとこちらで今現在、課内で考えているのは、カヌー競技に携わっている関係者、あと高校生なんかも今カヌー体験でかなり尽力していただい

ておりますので、高校生も受けていただいて、将来につなげていただければなと思っております。

とりあえず障害者カヌーの愛好者の数がまだちょっとつかめていない状況なので、とりあえず受ける、この加美町の方法としては、一応携わっている方々に最初受けていただいてふやしていきたいということで考えております。以上でございます。よろしく申し上げます。

○議長（早坂伊佐雄君） 企画財政課長。

○企画財政課長（熊谷和寿君） 企画財政課長でございます。

2点目の委託料の関係で答弁させていただきます。

先ほどランニングバイクの関係の委託料150万円というお話でございますが、これは振興公社に委託をするのではなくて、ランニングバイクでいろいろ全国各地で大会を行っておりますストライダージャパンといったところがございまして、その業者のほうにそのノウハウを指導いただくため、そしてまた、選手の募集等々も含めて、大会の運営等も含めた形で1回当たりでございますが、150万円をお支払いをするというものでございます。

先ほどもご説明ございましたが、全国で17カ所、このエンジョンカップ、エンジョイパーク指定になっているわけでございますが、その辺で大会をやっているのがその会社というようなこともございまして、そこにことし、できれば来年も2回になりますけれども、委託をして、そのノウハウを学び、その後はどういった大会になるのかわかりませんが、地元でできるものであれば、地元のほうでそういった大会を開催したい。地域指導で開催をしていければなというふうに思っているところでございます。以上でございます。

○議長（早坂伊佐雄君） 町長。

○町長（猪股洋文君） 稼ぐ力、これが地方創生の中で目的とするところでございます。今加美町がアウトドアランド形成事業ということで、稼ぐ力をつけようというふうに取り組んでいるわけでありまして、この地域にお金を落とすという大事なことはよく言われますが、滞在時間をいかに伸ばすかと。あるいはどうしたら宿泊をしてもらうかというところなんだろうと思っております。

そういった中で、薬葉に新たなボルダリング施設ができたということ、そして、今後お認めいただければ、パーク、ランニングバイクの常設コースができると。また、エンジョイカップという大会も開かれると。それから、ボルダリングに関しましては、6月2日には県大会であります薬葉カップ、それから、7月28日には東北総体というふうな大会も開催されるということです。ボルダリングにしてもランニングバイク施設にしても常設ですから、普段いろい

ろな方々が来て、そこで滞在をして食事もしていただき、お風呂にも入っていただきということが可能になってくるんだらうと思っておりますし、また、大会のときには多くの方々が訪れると思っておりますし、東北大会が開催されるということは、恐らくは東北各県の代表選手は事前に菓葉に来て合宿などもなさるんだらうというふうに思っておりますので、まさにこういったことを整備することによって、滞在時間が長くなる。あるいは宿泊というものが新たに生じてくるということで、稼ぐ力というものがついてくるんだらうというふうに思っております。

また、シートゥーサミットも2日間のイベントですので、宿泊が期待できるということも大きいだろうというふうに思っております。

それから、公設という施設のあり方でございますが、ボルダリングに関しましては当初八百数十万人、たしか3年後には四百数十万人だったと思えますけれども、徐々にこれはそれぞれの施設で多くの方々に利用していただく努力をしていただいて、できるだけこの町からの指定管理料は安くしていくという、そういったことが大事なんだらうというふうに思っております。

また、モンベルに関してまだまだ町民の皆さん方このことについて、モンベルの価値というものを理解していないんじゃないかという、まさに私もそう思っております。モンベル、この1年間で会員が10万人ふえて、今82万人か83万人になっているんですが、恐らく数年後に100万人になるでしょう。これだけ多くのファンを持っている、そして影響力のある企業ですので、ここをいかに有効に活用していくかということが私はアウトドアランド形成事業においても大事なんだらうというふうに思っています。

しかし、残念ながらまだまだ町民にその価値が理解されていないというのはご指摘のとおりだと思っておりますので、そのところを工夫というものは我々も行っていかなくちゃならないだろうというふうには思っているところでございます。

以上、答弁をさせていただきました。よろしく申し上げます。

○議長（早坂伊佐雄君） 委託の基準について、企画財政課長。

○企画財政課長（熊谷和寿君） 企画財政課長でございます。

先ほどご質問でちょっと答弁漏れがございました。150万円の委託料ということでございますが、これはストライダージャパンからの見積もりになってございます。きょうの見積書の内容についてちょっと手持ち資料がないのでございますが、その内容といたしましては、大会の企画、運営、管理、それから、制作費といたしましては、印刷物関係、それから、大会の表彰式、商品等々の経費、それから、それにかかわる人件費、それから保険関係、大会でございますので、保険関係。それから郵送費関係、郵送費といえますか、はがきとか、そういった関係

の経費、これらもろもろで150万円となっている状況でございます。以上でございます。

○議長（早坂伊佐雄君） 工藤清悦君。

○11番（工藤清悦君） ありがとうございます。

町長からも稼ぐ力というのが出たんですけれども、確かにこういう交流人口をふやす、関係人口をふやすというような施策を当然とっていけば、薬業の施設の社長はほくほくなのかなと、これからの見通しについてというふうに思うんですけれども、薬業施設群の増収だけでなく、やはりあそこにかつて、かつてというとおかしいですね。国立音楽院を誘致したことによって、リトミックで子供たちとか、高齢者の方々が恩恵を受けるというか、そういう機会がふえた。やはりそこにボルダリングとか、バイクのコースがある、またはそういう施設ができるということになれば、そういう機会もふえる。それをいかにして町民の方に共有していただいて、それを利用しながら健康増進なり、地域の触れ合いなり、あと家族といいますか、その形成運営に役立ててもらえるのかというようなことが非常に大事になってくると思いますので、単なる企画財政課なり、地方創生の担当だけでなく、総力戦でもって、どういふとっかかりをしていけばうまくいくのかといくことをぜひ課長方に自分の持ち分の中で考えていただいて、その音頭取り、かじ取りは町長だと思いますので、その辺についての意気込みをお伺いさせていただきます。

○議長（早坂伊佐雄君） 町長。

○町長（猪股洋文君） ボルダリングのファーストアッセントジャパンでは、青少年の大会も開催したいというふうに言っておりますので、ぜひ加美町の子供たちにも大会に出てほしいと。おかげさまで、4月5日オープンから今に至るまで、まだ1週間ぐらいですかね。ちょっとですかね。200人を上回る登録があったと聞いておりますけれども、ぜひ子供たちに大会に参加して、上位入賞していただいて、近い将来やっぱり国内あるいは世界レベルで活躍するような、あるいはオリンピック選手になるような、そういった青少年を養成していきたいというふうに思っております。

あとこのエンジョイカップというレースですが、これは2歳、3歳、4歳、5歳と5段階でレースがあるんですけれども、これも実は世界大会がございまして、日本選手、子供かもしれませんが、日本の子供たちが優勝しているんですね。ですから、こういったものにも町内の子供たちにぜひ参加してほしいと思っております。

なお、今年度予算で幼稚園等でこのランニングバイクの講習会も開催しますので、ぜひそこで興味を持って、ここで常設パークで練習をしていただいて、そして、エンジョイカップで優

勝して、国際大会にというふうな子供たちが出てくることを期待しておりますので、そのためにも皆さんと一緒にあって、こういった施設も盛り上げていければというふうに思っております。よろしくお祈りします。

○議長（早坂伊佐雄君） 町長。

○町長（猪股洋文君） 追加ですが、このボルダリング、大変ご承知のとおり、マスコミに取り上げられております。ほとんどのテレビ局、新聞社でも取り上げていただいておりますが、実はきょうさとう宗幸さんがいらっしゃって、「OH! バンデス」の収録でいらっしゃって、宗幸さんが体験をするそうでございます。恐らく今晚、放送は来週だそうでございますが、そういったことで、きょうもミヤギテレビのほうでも来ていただいているところですので、我々も積極的に情報発信しながら、マスコミにももっと取り上げていただけるように努力をしてみたいと思っております。お祈りします。

○議長（早坂伊佐雄君） 4番三浦 進君。

○4番（三浦 進君） 先ほど地方創生交付金事業の説明の中で、K P Iについて説明を受けましたけれども、このK P Iの効果というものが町内、町外関係ないんだということだったんですが、町内、町外、何%が町内で、町外が何%ぐらいというのがわかれば教えていただきたいというふうに思います。

それから、先ほど町長からモンベルの会員数がもう驚異的にふえていると。60万人から今75万人とか80万人とかになっていると思いますが、実は私がちょっと聞いたことなんですが、仙台のメッセとか大阪とか横浜ですか、モンベルフェアをやっているときに、余り運動に関係ない人も非常に安い値段で買えるので、入場料なんか1,500円かなんか払えば会員になれるんだというようなこともお聞きしまして、それほど運動に関係ない人もいるのかなというふうに思いますが、その2点についてお伺いします。

○議長（早坂伊佐雄君） 企画財政課長。

○企画財政課長（熊谷和寿君） 企画財政課長でございます。

先ほども全員協議会の中で担当のほうから今回の交流人口1万人というお話をさせていただきました。これは、町内、町外といった区別はしてございません。

これは、何%というのは非常に難しいと思いますが、いずれ、ボルダリング新しくオープンをいたしました。それから、レンタルとか、シートゥーサミット参加者等々を全部大まかではございますが、積み上げまして、年間1万人と。1人当たりの消費影響額が1,180円ということが出ておりますので、それを掛け算しまして、年間で1,180万円という形でご報告をさせて

いただきました。以上でございます。

○議長（早坂伊佐雄君） 町長。

○町長（猪股洋文君） 今の1,180円というのは、菓業にいらっしゃる方々、これ町民、町民外も含めて消費額、それを入場者で割った額が1,180円ということで、それを単純に掛けているということでございます。ご理解いただきたいと思っております。

それから、モンベルでございますが、確かにモンベルフレンドフェアのときにはアウトレットが開催されますから、割安に商品を買うことができます。ただ、これは会員限定ですので、年会費1,500円を払わないと会員になれませんし、モンベルフェアにも参加はできないと、入場できないということです。

ただ、このモンベルの会員の制度が一度1,500円を払えばずっと会員だということじゃなくて、毎年1,500円の会費を払い続けなくちゃならないということなんですね。そういったことからしますと、かなりコアといいますか、ファンといいますか、そういった方々が会員になっていらっしゃるんだろうと。

私も参加して思うことは、やはり情報を欲しがっている方がかなり多いということですね。ただ物を買うだけじゃなくて、情報誌を欲しがります。ですから、我々がお渡しするパンフレット、これ前にお答えしたんですが、多くのイベントですともう、もらったものはすぐごみ箱行きなんですよね。でも、このモンベルフェアに関しましては、捨てる方がいない。皆さん持ち帰っていただけると。ですから、どのフィールドに行ってもアクティブ、活動しようかというふうな、そういった情報をお探しの方が多く来ていらっしゃるんだろうと。単に安く買えるからというだけじゃなくて。そんなふうな印象は得ていますので、モンベルの会員に対して直接アクセスをする。あるいは情報提供するというのは非常に効果があるんだろうというふうに思っています。以上です。

○議長（早坂伊佐雄君） 三浦 進君。

○4番（三浦 進君） 地方創生交付金事業というのは、いわゆる交流人口の増加であり、よそから何人来るかというのは極めて重要なわけではありますが、町内、町外どのぐらい比率かもわからないということでは、ちょっとクエスチョンということでもあります。

したがって、今後の事業においては、その辺を何かの方法によって統計をとっていただきたい。そのように思います。

それから、2つ目のモンベルの会員数ですが、加美町は何人ぐらいモンベル会員がおるんでしょうか。わかれば。

○議長（早坂伊佐雄君） 町長。

○町長（猪股洋文君） それは、モンベルが管理しておりますので、恐らく聞いても個人情報にもつながりますので、そこのところは私どもとしては把握をしておりません。ふえていくことを期待しております。三浦議員もよろしくお願いします。

○議長（早坂伊佐雄君） 企画財政課長。

○企画財政課長（熊谷和寿君） 企画財政課長でございます。

先ほど交流人口の増1万人というお話をさせていただきました、その町内、町外の比率という再質問をいただきました。交流人口ですから、土産センターに買い物をしてくれる方あるいは食事をなさってくれる方、それらを全部含めての1万人というふうに考えてございますので、ただ、町内、町外を把握するとなれば、宿泊者数、宿泊される方が町内の方なのか町外の方なのか、その辺で把握はできるんでありますが、例えば土産センターで町内の方なのか町外なのかといわれましても、なかなか把握の方法は難しいのかなと思っているところでございます。

いずれシートゥーサミットあるいはボルダリングあるいは先ほど申しあげましたエンジョイパーク、これらにつきましては、参加申し込み等々で町内、町外、これ明確にわかりますので、それらでちょっと把握をしたいなと思っております。以上でございます。

○議長（早坂伊佐雄君） 1番味上庄一郎君。

○1番（味上庄一郎君） 先ほどの全員協議会でも説明があったんですが、着地型観光広告料、予算書の5ページ、役務費の広告料だと思うんですけども、この内容と契約先、それをお伺いいたします。

それから、先ほどの全員協議会でもあった平成29年度の要望課題というのは、これはあくまで参加された方からの課題であって、事業そのものの昨年度の検証というのはどのようにされたのか。

プレ大会だからということで、人数は余り多くなかったということですが、そこをしっかりと検証して、今年度の平成30年度の本大会に参加人数がふえるようにしなければ効果はないというふうに私は思いますので、その辺の検証をどのようにされたのか。

それから、平成30年度はツール・ド・347に関しては、山形県の、先ほど言いました大石田町ですか、自治体と連携するということですが、まだ具体的な連携内容というのは、打ち合わせとか、そういうはないと思うんですけども、どこまで協力を要請するのか。たしか前年度のプレ大会のときは、尾花沢市……

○議長（早坂伊佐雄君） 会議の都合上、時間を延長いたします。

○1番（味上庄一郎君） どこまで、尾花沢市はたしか徳良湖が出発地点で、尾花沢市自体の協力というのはなかったと思うんですけども、あったんでしょうか。人員とかもあったんですか。その辺、大石田町との今度スタート延長するということですので、その辺の協力体制をどういうふうにしていくのか。

あと、あるいはやはり山形の方面だけじゃなくて、やはり大崎市であるとか、世界農業遺産に認定されたわけですから、大崎地方をしっかりとこれも利用するというのも大事なことだと思いますので、その辺の大崎市との今後の連携などというのは検討されているかどうか。以上よろしくをお願いします。

○議長（早坂伊佐雄君） 商工観光課長。

○商工観光課長兼ひと・しごと支援室長（岩崎行輝君） 商工観光課長でございます。

3つ質問いただきましたが、まず1つ目の着地型観光の広告料でございますが、着地型観光広告料400万円でございますが、非常に大ざっぱな解答になりますが、これから夏、秋、冬、3回を予定しまして、アウトドア特集ということで主に仙台圏の方々を対象とした広告を出していくということでの予算計上をさせていただいております。

それから、2つ目でございますが、プレ大会の検証はどうなったのかということでございますが、検証はされたというふうには確認しておりますが、申しわけありません。ちょっと詳細については聞いておりませんので、後で報告をさせていただければと思います。

それから、3つ目でございますが、大石田町、尾花沢市との連携でございますが、実は数日前観光課の職員、それから観光協会、あとは何人かで大石田町と尾花沢市に訪問して、この件で協議をしております。また、これまでも347のきずながございまして、その関係もありまして、今回改めてお願いに伺って、大石田町、尾花沢市それぞれ参加をしてくださるということで、了解をいただいてきたというふうに聞いております。

なお、交通整理等でも協力をしてくださるという解答をいただいているということでございます。以上でございます。

○議長（早坂伊佐雄君） 今後の大崎市との連携についてお願いします。町長。

○町長（猪股洋文君） 若干補足も含めてお話ししますが、検証はしっかりしております。

検証の結果、ツール・ド・347、これはやはり発着が違う場所というのは、これは運営する側も参加する側も不都合であると。当然、尾花沢市の徳良湖出発で葉葉着ですから、その後じゃどうやってまた尾花沢市まで行って荷物を持ってくるかとか、いろいろあるものですから、やはりこれは発着は同じ場所が望ましいと。

それから、その際やっぱり葉葉が望ましいと。といいますのは、家族も来ているわけです。家族が例えばご主人が戻ってくるまで子供たちと時間を過ごさなくちゃならないと。そのときに、葉葉であるならば、さまざまな時間の過ごし方があると。お花畑を見たり、あるいはボルダリングを今度ではできたり、あるいはエンジョイパークで遊んだりというふうな、一日食べたり遊んだりしながら過ごせるというふうな、これはプロの方からの指摘もございました。

それから、やはり自転車の好きな方にとっては、40キロというのは満足できない距離なんです。ということで、100キロコース。ただ、皆さんが100キロ走るかということそうでもないわけですから、40キロコースもつくるということで、2コースということで、今、プレ大会を検証した上で、そういった葉葉発、葉葉着というふうなこととか、それから、距離、コースなども改めるというふうなことがございます。

また、大崎市との連携でございますが、以前お話をしたことがありますけれども、なかなかこれは難しい。むしろ今申し上げたように、山形側が非常に積極的であるということでございます。

また、こういったレースをイベントする際、参加者にとって魅力がある大会かどうか。魅力があるコースかどうかということも実は重要なんです。そうした場合に、やはり峠越えのコースというのも、自転車好きな方はやはり登りもないと、これはやっぱり退屈なんです。ですから、やっぱり峠越えというものは非常にこれは魅力があるだろうと。平坦地をずっと走るだけではやっぱり参加しがいがないということがありますので、コース設定ということから考えても、むしろ山形側との連携ということが大事なだろうと。

それから、山形側も前回は先ほどちょっと答弁なかったかもしれませんが、出発に関しては、山形県尾花沢市が全面的に行いまして、それから、県境の手前、鍋越峠の手前にサービスエード、ここで山形県のスイカとかおまんじゅうとか、いろいろなものを振る舞っていただいたんですが、これも当然山形県尾花沢市のほうで実施してきました。

ですから、今回は、やっぱり食べ物というのも実は重要でございまして、山形県に行って尾花沢市でもサービスエードがあり、大石田町でもあり、加美町でもありという、こういったことも楽しみながら、100キロあるいは40キロを走破していただくという、そういった意味からも、このコースというのは魅力的なだろうというふうに思っておりますので、今後とも山形県の1市1町との連携というものをとりながら進めていく方向性でよろしいのではないかとこのように考えておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

○議長（早坂伊佐雄君） 商工観光課長。

○商工観光課長兼ひと・しごと支援室長（岩崎行輝君） 商工観光課長でございます。

委託先については、まだこれからでございますので、ということでございます。

○議長（早坂伊佐雄君） 味上庄一郎君。

○1番（味上庄一郎君） 検証が、今、町長の答弁では、大会そのものの検証だと思うんですけども、例えば平成29年度に同じく交付金を使った人材育成事業などもモンベルのほうにかなりの金額が行っているわけですけども、その辺の人材育成の検証とか、そういったものの検証、さまざまな角度から検証しなきゃならないと思うんですけども、そういった検証というのはなされていないものでしょうか。

それから、やはり先ほど11番議員の質問でもありましたけれどもモンベルの価値というものがなかなか町民に理解されていないということで、アウトドア事業にこれだけの交付金を活用して一部の町民からは、モンベルにお金いっぱい払って我々何だかわからないよねというような意見もやっぱりあることはあるんですね。それが少数意見か多数意見かはまた別としまして、そういった声をこういう交付金を使って稼げるまちづくりをしていくのであれば、もう少し効果を考えて、町民が実感できるような部分というのも必要だと思いますので、そういったところをどのように今後の同じこの事業を続けていく上でどのように考えているのかお伺いしたいと思います。

○議長（早坂伊佐雄君） 町長。

○町長（猪股洋文君） まず、この地方創生、稼ぐ力というお話が先ほど来ありましたが、やはりいかに1つは交流人口を拡大していくかということですね。町として一番弱い部分は、発信力なんですね。つまり、本当にその情報を必要としている方々にその情報をお伝えするという、むしろ町外の方々に情報をお届けするという、ここが非常に自治体として弱い部分なんです。そういった意味からすると、先ほどもお話ししたように、モンベルのメンバーに対してピンポイントで情報を伝えるということ、まずこれが私は大事なんだろうというふうに思っております。

一方で、モンベルフレンドタウンになったことによって、なかなか町民が、どんな恩恵があるんだろうとか、どう自分たちとかかわって、かかわりがあるんだろうかということが実感できないという方々は確かにいらっしゃるだろうと思っております。

広報紙等では大分書いておりますけれども、皆さんが読んでいるわけではありませぬので、なかなか情報の発信というのは、伝える側の思いが必ず皆さんに届くというわけではありませぬが、我々もその努力はしていきたいと思っておりますし、昨年度始まったものの中には、地

域の方がガイドになって、先ほどのメープルシロップもそうなんですけれども、地域の方がガイド役になって、そしてよそから来た方々をご案内するというふうな取り組みなど、地域の方が主体となった取り組みも始まってきております。

また、指導者養成コース、カヌーについては、今年度は障害者のカヌーをサポートするための方、ボランティアさんを養成するということでもありますけれども、これも昨年、通常の養成講座、普通の健常者のための養成講座を受けた方にもぜひこれは参加していただきたいと思っていますし、工藤議員からもお話があったように、広く募って参加をしていただきたいと。

さまざまなアウトドアに関するものに関して、町民をやはり巻き込んでいくということはどうしても大事なんだろうと。それを通してモンベルということも認知をしていただければいいだろうというふうに思っておりますので、あわせて町外の方々に対する情報発信と、それから、町内の方々に周知をするということと、努力をしていきたいというふうに思っております。

○議長（早坂伊佐雄君） 人材育成の検証について。町長。

○町長（猪股洋文君） ちょっと私のところまでは届いてはおりませんが、実は公社の社員も含めて、そういった人材育成の研修、それから、加美ingスポーツもそうだったでしょうか、スポーツ関連の団体などからも参加をしていただいていたはずでございます。

ですから、それはやはり1回きりでその方々がすぐに一人で何かできるということはないと思いますけれども、やはり継続して人材養成というものを行っていき、やっぱり最終的にはさまざまなことを自前でやれるという体制、これが大事だと思っておりますので、そのための大事な一歩だったとは思っております。

ですから、1回きりじゃなくて、これからも人材育成には力を入れていきたいというふうに思っております。

○議長（早坂伊佐雄君） 副町長。

○副町長（吉田 恵君） 副町長でございます。

公社からも数名人材育成の研修に参加をさせていただいております。プールのほうで水泳のインストラクターをしている職員がおります。社員がおります。アウトドアとか、オリンピックを目指したこともある人なので、非常に体力的にも、また、運動神経もすぐれている人なので、積極的にこういうのに参加したいということで、その人も研修に参加をして、山歩きですか、カヌーですか、いわゆるアウトドア一般について研修を受けて、そして、その人が中心となって今アウトドア推進係という係をつくって、このような事業に対応していくということで進めているところでございます。以上です。

○議長（早坂伊佐雄君） 味上庄一郎君。

○1番（味上庄一郎君） 今、町長の答弁の中で、やはりそのPR方法がなかなか不得意であるという答弁がありましたけれども、これはこのアウトドア関連事業にかかわらず、去年の12月定例会でも子育てに関するPRもやはりこれから考えていくというような答弁があったんですが、そういった、全般的に町がやっていること、効果を上げるためのPRというのは、このアウトドア関連事業にかかわらず、やっぱり考えていかなければならないというふうに思います。

そして、このアウトドア形成事業がしっかり町民に受け入れられるように、その効果というものを最大限に出せるように、しっかりとことしも平成30年度やりましたら、その辺の検証をしっかりといただいて、また来年もするんでしょうから、そういう事業としてしっかり残っていけるような、そういう事業にしてもらいたいというふうに思います。答弁があればお願いします。

○議長（早坂伊佐雄君） 町長。

○町長（猪股洋文君） 加美町のみならず、自治体はなかなか情報発信というものを得意としていない部分ではあります。

ただ、皆さんもお気づきだと思いますけれども、加美町のニュースが新聞等で取り上げられる回数というのはかなりふえていると思います。これは、理由大きく2つありまして、1つは、定例記者会見、これは町村で行っているところというのは、私の記憶では余りありません。市では行っているんですけども、町村では定例で行っているというところは、恐らく加美町だけではないだろうかと思っています。そういった形で、マスコミの皆さん方に積極的に町の情報を提供しております。

また、職員が大変頑張って、新たな事業に取り組んでおりまして、その成果が1つずつ上がってきておりますので、そういったことについてもマスコミの皆さん方が取り上げてくださっているということでございますので、大分情報発信力というのは高まっていっているだろうとは思っています。

ただ、まだまだこれは十分ではありません。やはりこれからSNSなどを使った形での情報発信、やはり紙媒体、それからホームページだけでは不十分ですから、やっぱりソーシャルネットワークサービスというものを有効に活用していく。このあたりが課題なんだろうというふうに思っております。

そういったことも含めて、なお一層、発信力を高めていきたいというふうに思っております。そういった決意表明で終わらせていただきます。よろしく申し上げます。

○議長（早坂伊佐雄君） 6番伊藤由子さん。

○6番（伊藤由子君） もう終わりなのにといい顔している人もいますが、1点だけ確認したいと思います。

一般管理費の中の区長便配達業務委託料が計上されているんですが、この経過と、それから内訳について。それから、今後の区長の業務からこういった各毎戸配布の広報紙とか、そういうのは業務としてはなくなっていくのかどうかということを確認をしたいと思います。

○議長（早坂伊佐雄君） 総務課長。

○総務課長・選挙管理委員会書記長（佐藤 敬君） 総務課長でございます。

区長便の配達業務委託料というのは、これにつきましては、毎月1日に広報紙等を届けること、あとは10日と20日に回覧等、その他の文書を町の職員が区長さんのところに届ける、これまでは町の職員が行っていたものを委託をしたいというようなことで、今回お願いするものでございます。

当初予算の中でメール便のほう、本庁から支所に文書を配達する分、これについてはお願いしましたが、こちらの分についても職員の負担軽減というような意味でお願いをしたいということで、今回お願いするものでございます。

両方当初予算に上げたかったんでございますけれども、一応委託先としては、シルバー人材センターにお願いをする予定でございますが、人の配置的な部分ですぐにまだ間に合わないというようなこともございましたので、大体めどが立った、配達する方のめども立ったというようなこともありましたので、今回5月からというようなことでお願いをしたいというようなことでございます。

具体的には、中新田地区については2人の方、あと小野田地区、宮崎地区それぞれ1人の方というようなことでお願いをする予定でございます。以上でございます。

○議長（早坂伊佐雄君） 17番三浦又英君。

○17番（三浦又英君） 17番三浦です。ストライダーエンジョイカップ17カ所、予算的には150万円、あとシートゥーサミット12カ所、324万円ということで、その数、17カ所、12カ所については多分間違いないと思うんですが、その関係で、その箇所が地方創生推進交付金を活用してこの事業を展開しているのかどうかの情報。

さらには、町長が先ほどから交流人口の拡大、経済効果ということをこの事業に伴ってのお話をされておりますが、その辺の加美町以外の箇所での情報関係を収集しているかどうかについて伺います。

○議長（早坂伊佐雄君） 企画財政課長。

○企画財政課長（熊谷和寿君） 企画財政課長でございます。

先ほどの質問でございますが、エンジョイカップの開催の関係、エンジョイパークを日本にたしか17カ所だったと思いますが、指定されているというものでございます。

ただ、これ毎年1回エンジョイカップのほう開催しているようでございますけれども、地方創生交付金等々を活用して開催しているものなのか、あるいは単独費で開催しているものなのか、その辺の詳細に調べておりませんので、ちょっとご解答はできない状況でございます。以上でございます。

○議長（早坂伊佐雄君） 町長。

○町長（猪股洋文君） パークが17カ所ですが、エンジョイカップは公認パークじゃないところでも開催しています。ですから、もっとあります。例えば、県内では楽天パークでやっていますけれども、ここはエンジョイパーク、常設パークではございません。それから、寒河江市も常設パークではありません。ですから、ここは地方創生推進交付金を使ってやっているわけではありません。

恐らく地方創生推進交付金を使って実施するのは、加美町が初めてだと思います。私も、内閣府に行って参事官とお話ししたときにも皆さん余り知っていませんでしたので、このことについては、ランニングバイクについては情報を持っていなかったもので、恐らく初めてなんだろうというふうに思っております。

また、モンベル関係は、必ず地方創生推進交付金を使ってさまざまなことをそれぞれのフレンドタウン、フレンドエリアで行っております。

今度、北海道の小清水町、ここには道の駅の近く、隣にモンベルのショップを出したんですが、その一部は拠点整備交付金、2分の1、これを活用して、その交流エリアは整備をしたというふうに言っておりますので、このイベントに限らず、さまざまな形でモンベルフレンドタウンエリアでは地方創生推進交付金を使って整備をし、大会の開催などを行っているというふうに認識をしております。

経済効果が商工観光課でどれだけ調べているか、ちょっと私も把握はしておりませんが、課長もなったばかりの課長ですから、そのところは把握していないと思いますが、それなりの効果というものがそれぞれの地域にはあるんだろうというふうに理解をしているところでもあります。以上です。

○議長（早坂伊佐雄君） 7番木村哲夫君。

○7番（木村哲夫君） 済みません。時間押しているんですが、ストライダーエンジョイパーク登録料というのがありますが、先ほど企画財政課長のほうからことし、来年ぐらいは委託料150万円で、後は自分たちでという場合にエンジョイパークの登録というのは1回するとずっと継続してエンジョイパークだということができるのか。要するに自前で150万円出さなくても運営していく上で登録してできるのか。

それと、そのランニングバイクコース管理用備品ですか、50万円ということなんですけれども、特にその場所でいろいろなコーンとか備品を置いたりするんでしょうけれども、それ以外に整備するコストがかからないのか。

それと、バイクの種類としてストライダー、あとラジオフライヤーですか、あとDバイク等々と書いてあるんですが、なぜストライダーにしたのかという点。

最後に、障がい者カヌー競技サポートスタッフということで、今後オリンピックの云々ということになると、当然それに合わせた施設の整備も必要になってくると思うんですが、その辺の見通しというか、どのように考えているかお願いします。

○議長（早坂伊佐雄君） 企画財政課長。

○企画財政課長（熊谷和寿君） 企画財政課長でございます。

まず、1点目の登録料の関係でございます。これは、新たに新規に登録するといった場合は5万4,000円、毎年更新という形になりますので、これは3万円の更新料というふうになります。

ただ、先ほども申し上げましたストライダージャパン等々のウェブ上にこれが加美町のコースというふうな形で載りますので、宣伝費等々考えれば、決して高いものではないのかなと思っているところでございます。

それから、ランニングバイクコースの備品でございますが、この備品として考えてございますのは、先ほど映像でもごらんになっていただきましたが、障害物、コース上に木製のアップダウンするための障害物あるいはカラーコーンを購入する予定でございます。

コースの工事といたしましては、特に手を加えることはない。自然のままの地形を芝生をそのまま活用してコースを設定するというものでございます。以上でございます。

○議長（早坂伊佐雄君） 町長。

○町長（猪股洋文君） このランニングバイクを製造販売しているところは、ストライダー以外にもラジオフライヤーとかあるんですが、実はほかは製造販売しているだけでして、こういったコースを認定したり、あるいは大会を開催したりというふうなところは、このストライダー

のみなんです。

ですから、そういったことからしますと、やはりストライダーというものの導入というものが交流人口の拡大につながっていくんだろうというふうに思っているところでございます。以上です。

○議長（早坂伊佐雄君） 施設の整備について。体育振興室長。

○体育振興室長（上野一典君） 体育振興室長でございます。

全員協議会のほうでもちょっと説明はありましたけれども、ハードの整備はまだ具体的なものはございません。ただ、去年B&Gに一応B&Gの増設ということで申請はいたしました。ことしはちょっと落選してしまいましたが、引き続きそういう施設の整備等を行っていきたいと思います。

あと、競技場に関しては、とりあえず今、既存でできる限りのボランティア活動で対応していくしかないのかなと思っております。以上でございます。

○議長（早坂伊佐雄君） そのほか質疑ございませんか。3番早坂忠幸君。

○3番（早坂忠幸君） 再質問はしませんので、1点、2点ぐらいお聞きします。

この交付金事業なんですけれども、半分半分、国と町となっていますよね。町は半分出すということでもあります。全員協議会の中でも昨年度の検証しましたと。昨年度は3割未満の参加人数が大体でしたよね。例えばことし、これがこれから実施していったら、その程度であれば、町長は5年、10年というお話しなんですけれども、継続というのはなかなか難しいと私は思うんですけれども、それでも継続するか、これ町長に聞きます。

あとそれから、ボルダリング施設、それからマウンテンバイク等買いましたよね。それから、今回はランニングバイク、それからカヌーも買っているはずですよね。これらは、要するに継続的にもう使っていかなきゃならないんですよね。そのためにも町でも費用というか、かかっていくわけです。

2つ目の質問は、カヌーなるものがウォーターパークの外で使ったり、屋外プール、あそこで使う話も聞いたんですけれども、どの程度使ったのか。

あと、ほかの沼に行ったりして使っている頻度というのは、余り聞こえないんですけれども、ただ物を買って飾っておくんじゃないかと思っているんですけれども、2つ聞きます。再質問はしません。

○議長（早坂伊佐雄君） 町長。

○町長（猪股洋文君） 先ほど申し上げた、5年、10年と申し上げたのは、アウトドアにかかわ

らず、この地方創生に取り組む上で、その実が生ずるためにやはり10年スパン。何事もですけれども、やっぱり10年スパンで物事を考え取り組んでいく必要があるんだろうということで、アウトドアに限らず、お話をしたところです。

ですから、国としても交付金制度というものを5年で終わらせることなく、やはり10年は交付金制度というものをきちんと設けていただきたいというふうなお願いをしているというふうなお話をさせていただきました。

とりあえずは平成31年度で終了しますので、やはりこの平成30年度、平成31年度の実績を踏まえて、今後どのようにアウトドアランド形成事業を展開していくかということは当然検証した上で進めていく必要があるんだろうというふうに思っております。

また、カヌーに関してですけれども、これは現在、艇庫、これから皆さんに貸し出すための艇庫、やくらい林泉館とそれからぶな林との間の土地、ここに設置をします。ここに設置をしてから具体的には実際はカヌーのほうのレンタルも始まるということでもありますので、カヌーに関してはこれからということでもありますので、ご了解いただきたいと思います。以上です。

○議長（早坂伊佐雄君） そのほか質疑はございませんか。（「なし」の声あり）質疑なしと認めます。これにて質疑を終結いたします。

これより討論を行います。討論ございませんか。（「なし」の声あり）討論なしと認めます。これにて討論を終結いたします。

これより議案第41号平成30年度加美町一般会計補正予算（第1号）の採決を行います。

お諮りいたします。本件は原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（早坂伊佐雄君） ご異議なしと認めます。よって、議案第41号平成30年度加美町一般会計補正予算（第1号）は原案のとおり可決されました。

以上をもちまして、本臨時会に付議された案件の審議は全て議了いたしました。

これで平成30年加美町議会第3回臨時会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

午後5時32分 閉会

上記会議の経過は、事務局長武田守義が調製したものであるが、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成30年4月13日

加美町議会議長 早坂伊佐雄

署名議員 三浦進

署名議員 高橋聡輔